

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における 高 生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

高 生 中学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
数学A	全国平均正答率を下回っている。
数学B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	数学A	数学B
平成24年度	本市	73.5	61.1	58.6	43.8
	全国	75.1	63.3	62.1	49.3
平成25年度	本市	74.7	65	60.3	38.2
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5
平成26年度	本市	77.2	47.6	62.4	54.4
	全国	79.4	51	67.4	59.8

② 学力調査結果の分析

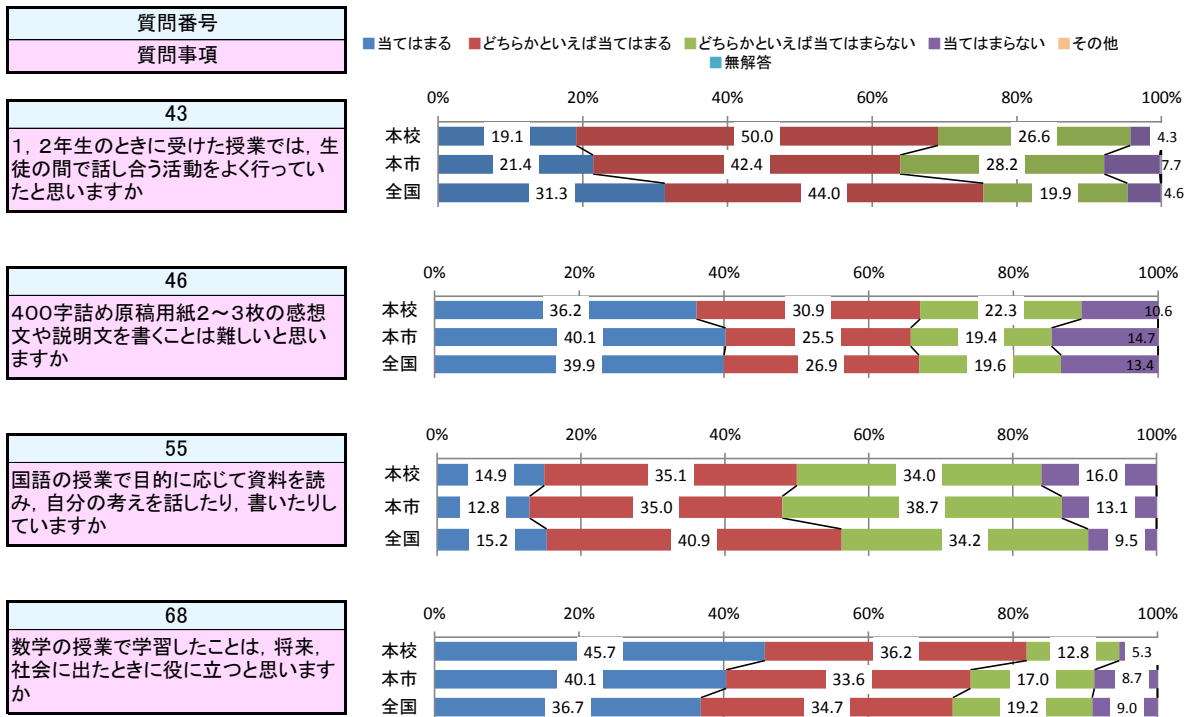
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、無解答が少なかった。 ・「話す・聞く」に関する設問に理解が不足している。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書きに正答率が高いものが多かった
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の内容を捉える問題の正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を下回っていた。 ・「書く」領域に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」領域は、全国平均より高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「資料から情報を得て書く」問題の無解答率が高かった。

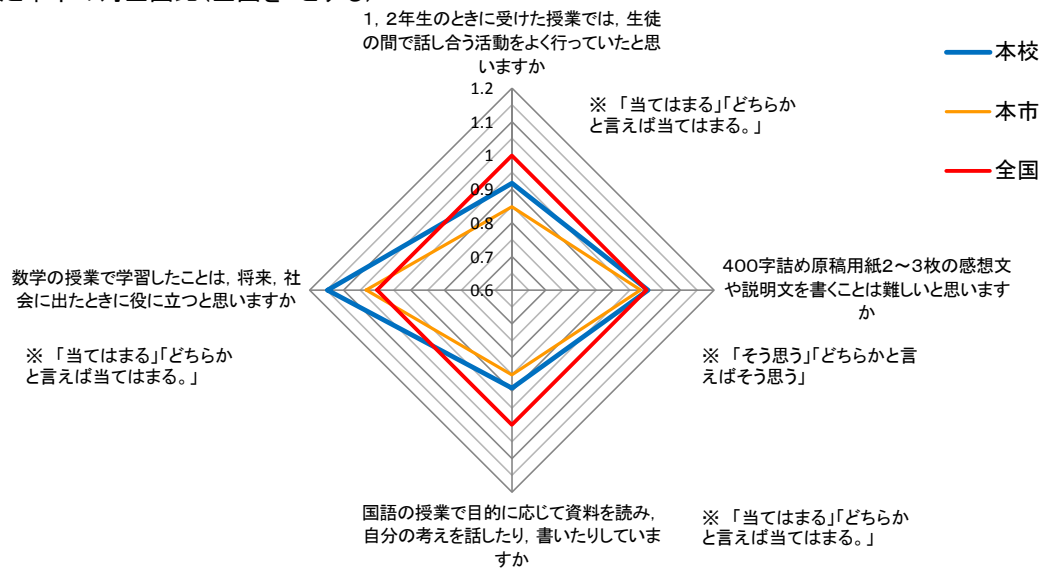
数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率をわずかであるが、下回っており、図形の問題が特に正答率が低く、誤答も多かったため、図形認識が苦手なことが明確になった。 ・関数の問題の無解答率が高く、関数の概念を認識させる必要がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・代数分野の正答率が高く、軒並み正答率が非常に高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・関数分野、図形分野での理解力が乏しく、図形分野全体的に正答率が低い。

数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率をわずかであるが、下回っており、図形の証明の問題について無解答率が高く、誤答も多かったため、筋道を立てて考察することの苦手なことがはっきりした。 ・関数の問題の無解答率が高く、関数の概念を認識させる必要がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・文字式の証明に関する正答率が高かった。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の論述に関する問題に対して、無解答率が高く、誤答が多い。

③ 学校での学習状況に関する調査結果



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



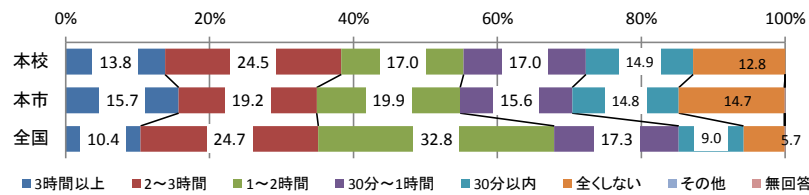
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・話し合い活動は全国平均に近づいてきている。各授業で話し合い活動を取り入れている成果が出てきている。
 ・「発表する機会が与えられている」と答えている生徒は増加しているものの、まだその差は開いている。今後も引き続き発表する機会を増やす授業を行っていく。
 ・文章に書くことに、抵抗感を持っている生徒は昨年に比べ増加している。「書く」ことに関しては、学力調査の結果からも、今年度は無解答率が高くなっており、今後自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、「書く」ことを授業に取り入れる必要がある。
 ・第一学年の夏の教室で、正の数・負の数、文字の式、方程式の計算を重点的に取り組んだことが第二学年、第三学年の代数分野の理解力の向上に繋がっている。今後は、図形分野における論述へ興味・関心が高くなるような工夫をした授業を行っていく。

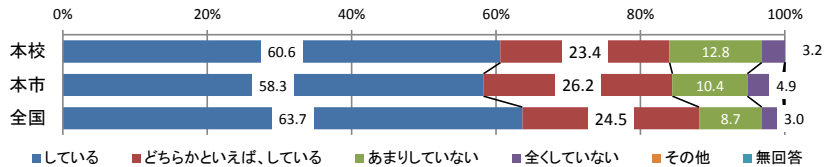
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

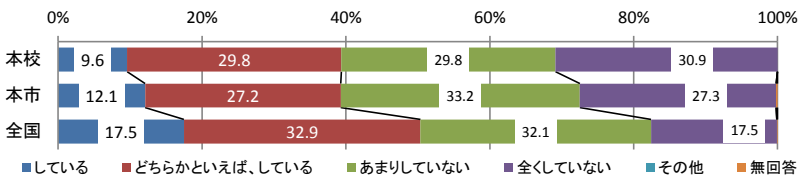
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



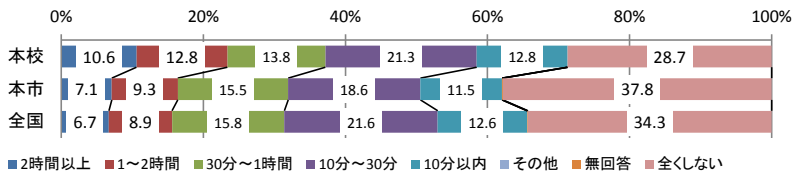
22
家で、学校の宿題をしていますか



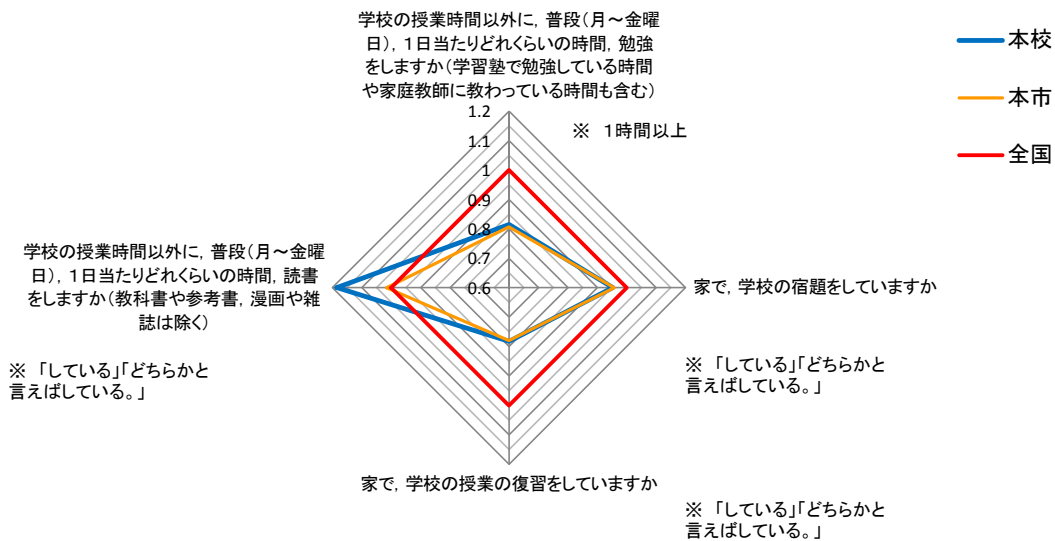
24
家で、学校の授業の復習をしていますか



17
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



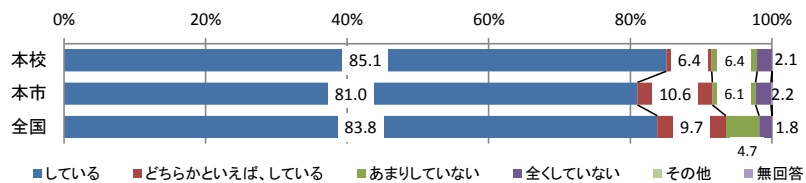
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・家庭学習習慣については、全体的に顕著な変化は見られず、全国と比較して低い数値が続いている。唯一、読書の習慣については緩やかな向上傾向にある。これは、朝読書の取り組みで、本に親しむ環境が整ってきており、本を媒体にした生徒間コミュニケーションが増加してきていることが影響していると考えられる。

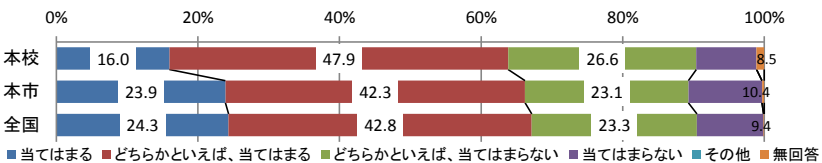
・TV、DVD、テレビゲーム、インターネット、スマホ等に費やす時間が、いずれも4時間以上の生徒が全国を大きく上回っている。家庭学習習慣の定着の妨げになっていると推測される。

④ 生活習慣等に関する調査結果

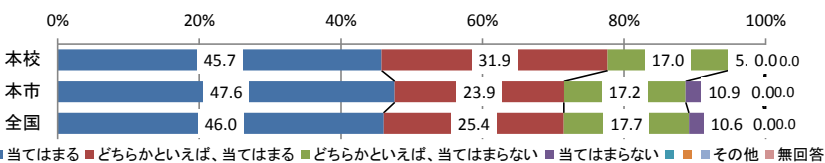
1
朝食を毎日食べていますか



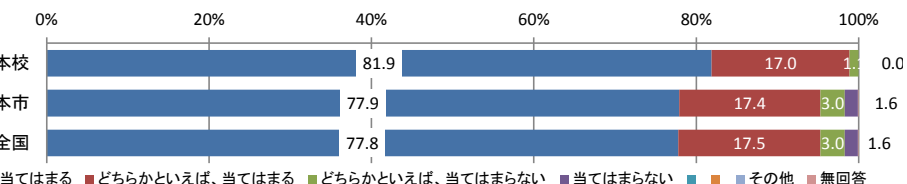
6
自分には、よいところがあると思いますか



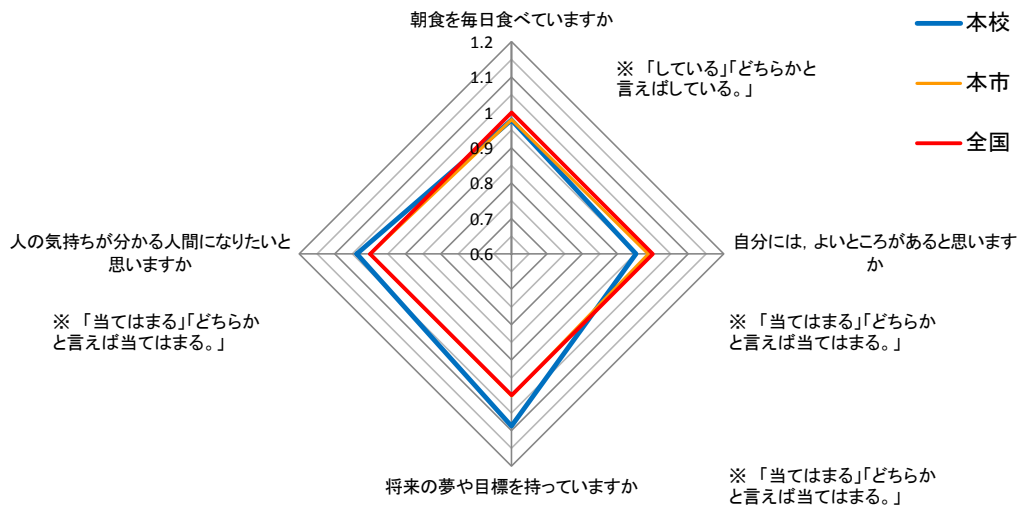
10
将来の夢や目標を持っていますか



36
人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ・朝食を毎日食べる生徒が減少してきている。
- ・「自分にはよいところがある」と考える生徒は全国と比較して低い。自己肯定感、自尊感情が低い傾向にある。
- ・「夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「人の役にたつ人間になりたい」と答えた生徒は、いずれも全国を上回っている。このことは、学校全体の教育活動の中で、道徳教育を中心とした人間形成のための教育、指導が少しずつではあるが、生徒の心を育ててきているためであると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎各教科と各学年が連携して、学力向上のための特設時間の実施する
 - ・朝自習で基礎的・基本的な演習を繰り返し行い、確認テストを行う。
 - ・「天声人語」の視写に取り組む。
 - ・単元毎に、振り返りテストを実施し、再テストや学年と連携した放課後の補充指導を行う。
 - ・定期考査前の放課後教室を工夫する。
- ◎国語・数学の過去問題、アシストシート、活用する力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの宿題とする。
 - ・活用する力を高めるワークをホームページより適宜ダウンロードして活用する。
- ◎授業規律の確立
 - ・「高中生授業規律スタンダード」を教室掲示して、全校的に指導する。
- 自学ノートの取り組みについて検討する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習の習慣化
 - 毎日宿題を出し、「宿題テスト」を週1回実施する。
 - ・家庭学習時間を定める
 - ・自学ノートに取り組む
- ◎学力向上に向けた取組等を保護者へ周知する。
 - 「家庭学習チャレンジハンドブック」をPTA理事会や学校ホームページ等で紹介し、保護者への啓発活動を行う。
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの宿題として取り組ませ、授業でポイントを指導する。
- ◎学校生活の様子を具体的に紹介することによって、子どもと親が家庭で共に過ごし、話題を共有することができるようにする。
 - 学校だより、学級通信などをさらに充実させ、家庭との連携を図る。